

ICT夢コンテスト 実践事例応募用紙

※この応募フォーマットはホームページよりダウンロードしてください。

類似のコンテストに入賞歴の無い事例が対象です。有無を右欄に記入ください。				無
この実践事例は下の要素の何々を含んでいますか。該当する項目の左に ● を記入してください。複数選択可です。				
効果的な授業	●	児童生徒の資質・能力向上	●	ICT活用指導力向上
校務の情報化	●	保護者や地域への情報発信		ICT活用サポート
ICT活用推進		学校運営・管理		保護者や地域による学校支援
学校行事		通級指導教室・特別支援学級		地域での児童生徒学習支援
				その他 ()

学校又は団体名 (実践時)	埼玉県立越谷特別支援学校		
団体種 (校種、NPO 等)	特別支援学校		
応募者 <small>氏名漢字、職名、氏名カタカナ</small> ※連名での応募も可	代表者	中井 智也	教諭
	連名者		ナカイ トモヤ
学校や団体への所属年数(代表者)	7	年	ICT夢コンテストの今回を含む応募回数(代表者)
			2 回目

実践事例タイトル (30 文字以内・サブタイトル無し)	もう、もどかしくない！iPad とスイッチで伝わる思い		
教科もしくは分野	自立活動、生活単元学習等	教科の単元がわかる場合 (複数可)	
対象者 (学年・他)	中学部 2 年		
実践場所 (PC 教室、体育館等)	教室	実践時期	通年
活用した ICT 機器、教材、環境等	iPad、棒スイッチ、iPad タッチャー、プリンタ	実践の特長 (先進性、普及性) をどちらか一つ選択 ※該当する項目の左に●を記入	先進性
			● 普及性

アンケートをお願いします。									
コンテスト企画運営の参考にさせていただきます。番号を「番号記入欄」に記入してください。複数記入可です。									
(問) 本コンテストをどのようにお知りになりましたか。									
(回答群) ①案内ポスター ②案内チラシ ③事務局メール ④新聞等のニュース媒体から ⑤前から知っている									
⑥教育委員会からの紹介 ⑦上司や友人・所属団体からの紹介 ⑧JAPET&CEC ホームページより									
番号記入欄	⑤	⑦							

※連絡先住所は、事務局からの郵送物を受け取れる住所をご記述下さい。また、E-mail 及び電話番号は、事務局から連絡を取らせていただけるものをご記述下さい。

- ・ 1 頁目表紙 (応募者情報) のフォーマットの変更は、ご遠慮下さい。
- ・ 応募事例の図や写真データの組み込みは自由です。参照 URL は不可です。
- ・ 表紙記述 1 頁と実践事例内容記述 2 頁以内、計 3 頁以内で纏めてください。それ以上は受け付けられません。

実践の概要（実践内容を5行以内で簡潔にまとめる）

脳性まひによる肢体不自由のある生徒に対し、iPad を使ってコミュニケーションの広がり支援した実践である。また、同校の教員に対して実践で使用した機器の使い方や製作方法についても自主研修を行った。家庭や校内に広く活用させたい思いから、使用する ICT 機器はなるべく既製品を使用する、手作りであっても代替に既製品が用意できることに気がつけた。

(1) ICT活用の目的とねらい

対象の生徒0さんは中学部2年生で、脳性まひによる両上肢・両下肢機能障害、体幹機能障害（座位や起立の保持が困難）があり、生活全般において介助が必要である。（身体障害者手帳1種1級）

0さんは自分の意思や意見があり、それを他者に伝えたい気持ちを強くもっている。（伝わらず、泣いてしまう場面がある）学習に対しても意欲的で、授業での質問に積極的に回答している。しかし、発語ができないため、文字盤から1文字ずつ指さしして言葉を伝えている。自身のiPadを持っていて、それに入っているトーキングエイド（アプリ）も使用しているが、文字盤同様に1文字ずつ指でひらがなをタップし、言葉にして伝えている。

実際に0さんと接すると、指さし（腕を大きく上げ下ろしするため）に時間がかかり、指す文字の場所もあいまいなときが多く、伝えたいことを汲み取れないことがあった。また、授業で0さんが発問に対しての答えを伝えている間、他の生徒の待ち時間が長くなったり、授業時間が足りず最後まで答えを聞けないことが多々発生してしまった。保護者や昨年度担当していた教員等からは、少しずつより身体を動かすことが難しくなっているという話を聞き、今までの意思伝達方法を変えようと試みた。また、同じ学習グループの他の生徒に対しての関わりが少なく、昼休みは教員とのやり取りが中心であったので、生徒同士の関係も深めたいと考えた。

(2) 実践の特長・工夫（先進性があるか または普及性があるか）

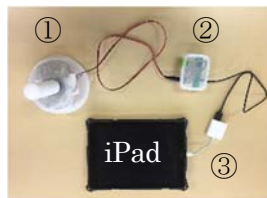
0さんを支援するにあたって、なるべく既製品を使用する、手作りの物であっても代替に既製品が用意できるということに気がつけた。アプリは無料にこだわった。これは学校だけでなく家庭でも同様に使えるようにするためである。また、敷居を低くし、学校で広く普及させたいと考えたからである。

①iPad とスイッチを使った思いの表出や表現



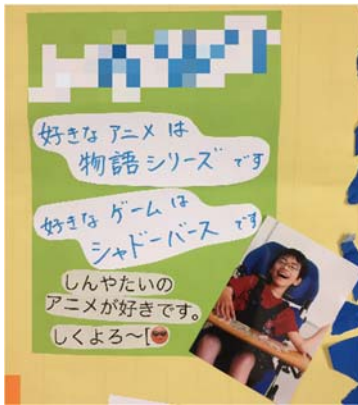
本人のiPadにスイッチをつなげ、スイッチコントロール（標準機能）で文字入力を行った。文字盤に比べて早く正確に、そして長い文章で細かく思いを伝えられるようになった。工夫として、0さんは電動車いすをジョイスティックで操作できることから、ジョイスティックと同じような形である棒状スイッチを使用することにした。

棒スイッチ

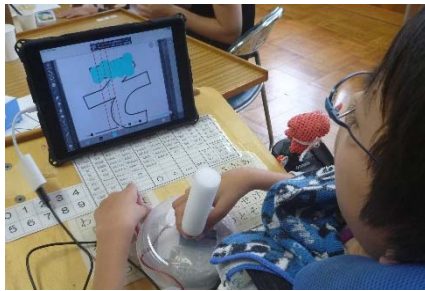


←iPad に接続した様子

- ①棒スイッチ(既製品)
- ②スイッチアダプタ(手作り) ※代替品：でき iPad2 等
- ③LightningUSB アダプタ(既製品)



掲示物作成の際、今までは教員が本人から書きたいことを聞き取り、代筆していた。しかし、自分で文字入力できること、より達成感をもってほしいことから、入力したものをそのまま掲示物に活かさないかと考え、iPadのAirPrint（標準機能）を使用した。これにより、文字を直接プリンタで印刷でき、掲示物に活かせるようになった。また、お絵かきアプリ（ibisPaint：無料）を使用し、色塗りもできた。下の画像は生活単元学習で作った焼きそばを他のクラスの生徒に配る際、屋台に見立てるために作った看板である。0さんは「そ」の色塗りをした。



②対戦型ミニゲームを通じた友人とのやりとり



昼休みをはじめ、クラスメイトとの関わりが少なく感じていた。そのため、対戦型のゲームアプリ（MicroBattles、HappySoccer等：無料）を使ってクラスメイトと関わりをもてるようにした。ここでは、ワンタップ（スイッチ一つ）で遊べる、対戦型である、無料であることを条件にアプリを探した。一緒にプレイすることで共に笑い、感情を共有できた。また、自分から一緒にゲームをしようと友人を誘うこともできた。

③家庭や教員への普及



保護者が来校された時は、本人がスイッチでiPadを操作する様子や成果物を見ていただくよう心がけた。また、学校で使用している機器の種類、購入先や値段等について資料にまとめ伝えた。

0さんへ支援を見て、他の教員から「他の生徒にも同様に支援ができそうだ」「スイッチコントロールについて教えてほしい」という言葉をいただき、普段の会話の中で伝えていくとともに、夏季休業中に自主研修を開いた。また、年度末に校内の実践発表会にてポスター発表をする予定である。

(3) 実践の成果（子どもたちや教員はどう変わったか、絆の深まりは見られたか等）

0さん自身が楽になったと感じている。伝わらないもどかしさから涙を流す場面が見られなくなり、上手に伝えられない、細かく伝えたいというときにはスイッチを使うと自分で選択できるようになった。友人との関わりにおいては、ゲームのことについて自主的に聞きたいことを入力し、質問できた。教員についても、本人が短い時間でたくさんのことを発信できるようになったことで、「授業で教えられる幅が広がった」と声を聞くことができた。また、「思ったよりも簡単に使えるのですね」と言ってもらい、普及の可能性を感じている。